

幸せの国・ブータンの メリーポピーたち

松永秀和

12 花を求めてブータン紀行



メコノプシス・ホリデュラ

①ヤレ・ラの北西 標高 4520m



②リンシ谷
標高 4450m



③ナブツォーの北 標高 4150m

青いケシの代表種の一つであるメコノプシス・ホリデュラ（M・ホリデュラ）の生息域は広い。北は寒冷・乾燥の大地、中国青海省からチベット、そして8000mのヒマラヤを越えて、温暖・湿潤のネパールやブータンに至る。M・ホリデュラはその形状、形態をこうした多様な気候に対応させてきたし、亜種、変種も多い。小種名である「ホリデュラ」はラテン語で剛毛の意味であるが、乾燥地帯ではこの剛毛は硬く密である。一方、ヒマラヤ南麓ではそれほど固くなく疎らである。花の色も、北方のものは濃紺から紫紺であるが、南方ではスカイブルーだ。茎高も北の花は30cmに満たないが、ハ県で見えた近縁のM・エロンガタは50cmを越していた。また、基準種は一つの茎に一つの花しかつけないが、茎が合着して茎から花柄が出ているように見える株もある。

チベットと国境を接するチョモラリトレッキングでは、同一種と思えないほどの変化を見ることができると。写真①はリンシ谷からヤレ・ラ（4920m）への登り口で見たM・ホリデュラだが、基準種に近い。しかし、そこから1kmほど北へ行ったらところでは、茎が合着した②白花のホリデュラがあり、さらに南下してタケタン谷からナブツォー湖（4300m）へ登る谷で出合った③ホリデュラは丈が1mもあった。花の色の美しさだけでなく、こうした多様性も青いケシの魅力の一つである。